

株主メモ

事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当基準日 3月31日
定時株主総会 毎年6月下旬
単元株式数 100株
株主名簿管理人 みずほ信託銀行株式会社
東京都中央区八重洲一丁目2番1号

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合（特別口座の場合）
郵送物送付先	お取引の証券会社等	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問合せ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く9：00～17：00)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当金 受取り方法の変更等)		みずほ証券株式会社 本店、全国各支店及び営業所 プラネットブース(株式会社みずほ銀行内の店舗)でもお取扱い いたします。 みずほ信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 ＊トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行株式会社及び株式会社みずほ銀行の本店及び全国各支店 (みずほ証券株式会社では取次のみとなります)	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の 郵便物送付先・電話お問合せ先・各種手続お取扱店を ご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取以外の株式売買はできま せん。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行って いただく必要があります。

公告方法 電子公告（<https://www.furukawadenchi.co.jp/>）
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合には、
日本経済新聞に掲載する方法により行います。

○上場株式配当等の支払に関する通知書について
同封の配当金計算書は、租税特別措置法の規定に基づく支払通知書をかねております。
証券口座での配当金受取りをご指定の株主様の場合、源泉徴収税額の計算は証券会社にて行われますので、確定申告を
行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社へご確認ください。

HOME PAGEのご紹介

当社ホームページではIR情報をはじめとする、
さまざまな情報をタイムリーにお届けしております。
ぜひご覧ください。

<https://www.furukawadenchi.co.jp/>



古河電池株式会社
〒240-0006 横浜市保土ヶ谷区星川二丁目4番1号
TEL：(045) 336-5034

FB 古河電池株式会社

第86期 株主通信

2020年4月1日から2021年3月31日まで

株主の皆様へ／事業の概況

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに、第86期（自2020年4月1日 至2021年3月31日）の事業概況をご報告申し上げます。

当連結会計年度における世界経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行の影響により依然として厳しい状況にあります。先行きについては、感染症の影響により景気がさらに下振れするリスクがあると想定されます。

我が国経済においても、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止策を講じるなかで、各種政策効果等により一部持ち直しの動き見られますが、依然として厳しい状況にあります。また先行きについても、世界経済同様に感染症の影響により景気はさらに下振れするリスクがあると想定されます。

蓄電池業界においては、自動車分野は、長期的には先進国での成長率が鈍化する事が想定され、新興国においては鉛蓄電池の市場は堅調に推移し、重要性がより高まってく

ると想定されます。産業分野においても長期的にはデータセンター向け、スマートグリッド向け等の需要は引き続き堅調に推移する事が想定されます。一方で短期・中期においては感染症の流行によりサプライチェーンに影響を与え、自動車・産業ともに厳しい状況となることが想定されます。

当社グループにおいては、海外拠点の安定的成長、次世代電池を含む新商品開発を通じたビジネス創出、基幹事業としての鉛蓄電池事業の収益向上、人財育成による革新力の蓄積を重点施策に定め、中長期的な企業価値の向上を目指し推進するとともに、感染症に対しては、各拠点での定期的な消毒やテレワーク等の感染拡大防止策を柔軟に実施する事で事業の継続に努めました。

当社グループの売上高は前期比4,528百万円（7.0%）減少し59,958百万円となりました。これは、主に国内及びタイにおける新車向けの売上減少があった事によります。このうち海外売上高は20,043百万円となり、売上高全体の33.4%となりました。

損益面につきましては、営業利益は自動車用の取り換え需要向けが堅調に推移した事、インドネシアの子会社における収益性の改善等により前期比1,103百万円増加し4,397百万円（前期は営業利益3,293百万円）、経常利益は前期比1,243百万円増加し4,480百万円（前期は経常利益3,237百万円）となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益は前期比1,376百万円増加し3,614百万円（前期は親会社株主に帰属する当期純利益2,238百万円）となりました。

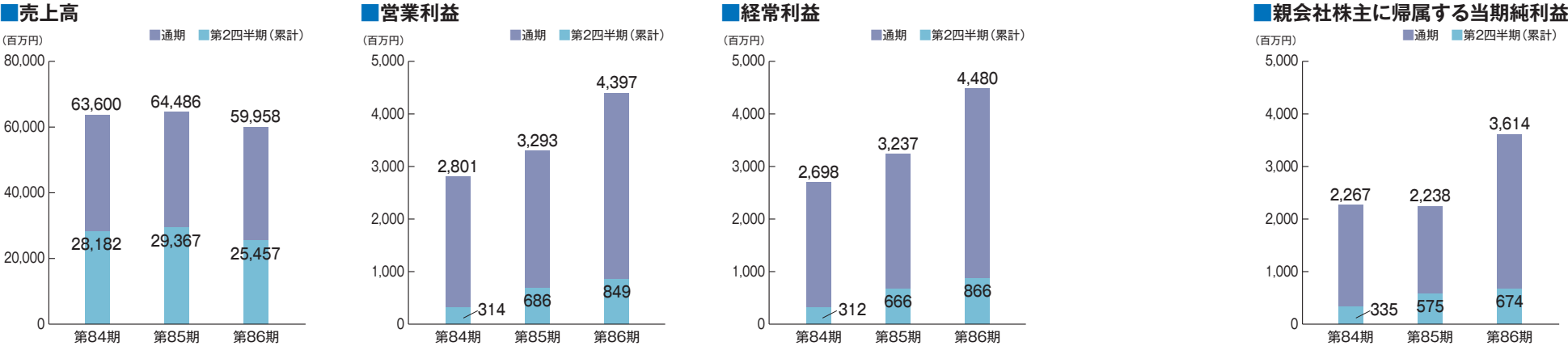
当社は、配当を継続的に行い、株主の皆様へ利益還元することを基本方針としており、当期の期末配当金につきましては、1株につき22円といたしました。

当社グループでは引き続き、総力を結集して事業の拡大及び利益の増大を目指してまいりますので、ご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。



代表取締役社長
小野 眞一

2021年6月



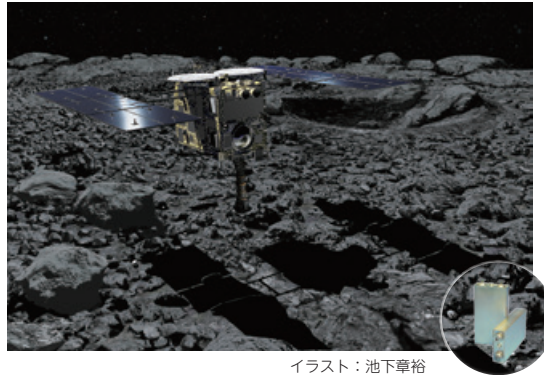
来期連結業績予想

売上高	62,500百万円
営業利益	4,000百万円
経常利益	4,000百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	3,450百万円
1株当たり当期純利益	105円25銭

古河電池製リチウムイオン電池搭載の小惑星探査機「はやぶさ2」、カプセルリエントリ成功！

2020年12月6日、古河電池製リチウムイオン電池が搭載された小惑星探査機「はやぶさ2」が、小惑星リュウグウのサンプルが格納されたカプセルを地球へ放出する「カプセルリエントリ運用」に成功しました。本リチウムイオン電池には、当社が初代「はやぶさ」と金星探査機「あかつき」で培った技術・経験が活かされています。「はやぶさ2」は現在、軌道を変更し、別の小惑星を目指しています。次のミッションにおいても、当社製リチウムイオン電池は第二の電源としての役割を果たし、ミッションの成功に貢献します。

古河電池は、宇宙空間という極限の環境で磨かれた技術力と品質力、ノウハウを活かし、リチウムイオン電池の技術展開、用途拡大を推し進めてまいります。



イラスト：池下章裕

積層ラミネート型リチウムイオン電池事業の承継を完了

2021年4月1日、古河電池はマクセル株式会社より積層ラミネート型リチウムイオン電池事業の承継を完了しました。同事業の有するリチウムイオン電池の技術力・ノウハウを新たにに取り込み、産業領域へ本格展開することで、事業拡大を進めてまいります。

古河電池は、中長期的な方向性のひとつに【次世代電池を含む新商品開発を通じたビジネス創出】を掲げています。当社が永年にわたって培ってきた技術力・研究開発力を核として、持続的な成長を実現するためには、既存事業の成長に加え、M&Aや異業種とのパートナーシップ等を通じた成長も不可欠だと考えています。今後は、新たに取得した事業と既存の技術力・研究開発力との融合を早急に具現化するべく、経営統合に注力し、売上の拡大および採算性改善を図ってまいります。

福島県の再生可能エネルギー設備に蓄電池を納入し、再エネ導入拡大を後押し

脱炭素社会の実現に向け、再生可能エネルギー（再エネ）の導入拡大が急がれる今、電力需給バランスを調整する蓄電システムに注目が集まっています。2021年1月、古河電池は(株)エコロミとともに、福島県双葉郡富岡町で、太陽光パネル・サイクルユース鉛蓄電池・インバータを一体化した「サステナブル・エナジーソリューション」の運用を開始しました。サステナブル・エナジーソリューションは、日照時の余剰電力を蓄え、夜間に供給し、停電時など系統電力の供給が途絶えたときには、系統に依存しないオフグリッド独立電源システムとして機能します。

古河電池は今後も福島県に生産拠点をもつ企業として、蓄電池・電源技術と地域におけるパートナーシップによって、県内の再エネ導入拡大および環境保全に貢献してまいります。



こんなところに

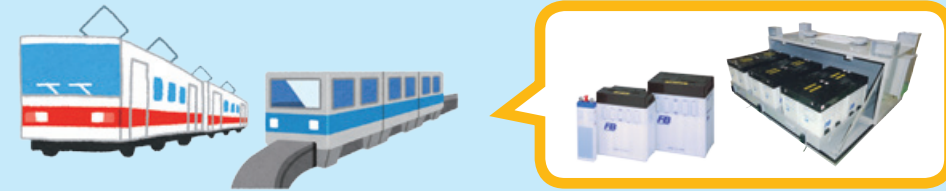


古河電池

FB

世界中で古河電池の製品や技術が活躍しています！

国内外の鉄道に古河電池のアルカリ蓄電池が搭載されています！



シンガポールのモノレール「セントーサ・エクスプレス」にも搭載!!

シンガポールの中心地とリゾート地・セントーサ島をつなぐモノレール「セントーサ・エクスプレス」にも、古河電池のアルカリ蓄電池が搭載されています。耐久性・長寿命性に優れ、メンテナンスの負担も小さい当電池は、グローバルの鉄道市場においても活躍しています。



世界中で活躍するいすゞのピックアップ・トラックにも古河電池の鉛蓄電池が搭載されています！



*ピックアップ・トラックのイメージ

いすゞ自動車株式会社がタイで生産しているピックアップ・トラック「いすゞD-MAX」には、古河電池のタイ子会社サイアム・フルカワ社で生産された鉛蓄電池LNシリーズが搭載されています。LNシリーズは、欧州規格(European Norm)を採用した自動車用鉛蓄電池で、日本では2015年から国内の新車メーカーへ納入しています。この度、タイで「いすゞD-MAX」に採用されたLN3形とLN4形の鉛蓄電池には、アイドリングストップ車対応版もラインナップ。タイでも拡大しつつある環境対応車へのニーズに応えるべく、高容量・高耐久性・長寿命化を実現し、地球とドライバーにやさしいバッテリーとなっています。

会社情報

会社の概況 (2021年3月31日現在)

商号	古河電池株式会社 (The Furukawa Battery Co.,Ltd.)	主要事業	鉛蓄電池 自動車用、二輪車用、鉄道車両用、航空機用、船舶用、産業用、産業用太陽光発電システムなど
本社	横浜市保土ヶ谷区星川二丁目4番1号	アルカリ蓄電池	事務機器・OA機器用、計測機器用、UPS用、人工衛星用、防災機器用、航空機用など
設立	1950年9月1日	電源装置	直流電源装置、無停電電源装置など
資本金	1,640百万円	その他	コンバーター、バッテリーチャージャー、バッテリーテスター、電気工事、電気通信工事など
従業員数	979名 (単体)		

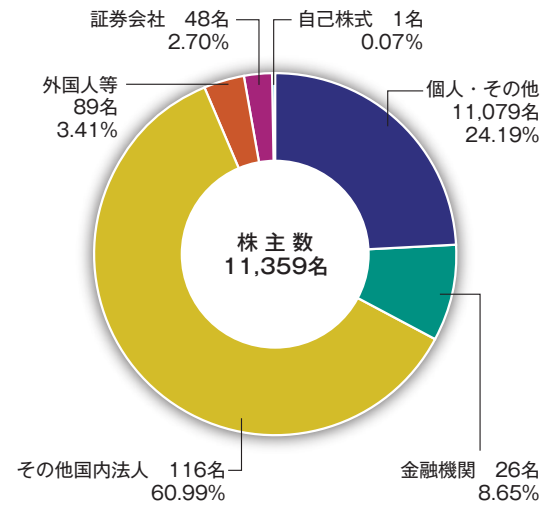
株式の状況 (2021年3月31日現在)

発行可能株式総数	80,000,000株
発行済株式の総数	32,800,000株
株主数	11,359名
大株主	

株主名	持株数 (百株)	持株比率 (%)
古河電気工業株式会社	187,812	57.30
古河電池取引先持株会	5,319	1.62
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	4,958	1.51
朝日生命保険相互会社	3,520	1.07
米田明夫	2,460	0.75
損害保険ジャパン株式会社	2,370	0.72
株式会社東邦銀行	2,300	0.70

(注) 持株比率は自己株式 (22,086株) を控除して計算しております。

◆所有者別分布状況



取締役、監査役及び執行役員 (2021年6月25日現在)

代表取締役社長	小野 眞一
取締役常務執行役員	千葉 徹
取締役常務執行役員	田口 仁
取締役上席執行役員	河合 哲也
取締役上席執行役員	清水 信明
取締役 (社外)	江口 直也
取締役 (社外)	飯村 北
取締役 (社外)	佐藤 達郎
取締役	中嶋 章文
監査役 (常勤)	石崎 俊司
監査役 (社外)	小川 幸伸
監査役 (社外)	木川 真希子
常務執行役員	山本 浩一郎
常務執行役員	上村 高敏
上席執行役員	太田 信一郎
上席執行役員	山本 敏郎
執行役員	新妻 郁浩
執行役員	明田 進
執行役員	川名 毅
執行役員	樋上 俊哉
執行役員	比佐 壮
執行役員	鈴木 孝光
執行役員	蛭田 友喜

主要拠点 (2021年6月25日現在)

国内営業拠点	
当社	全国10拠点
販売会社	古河電池販売(株) 全国6拠点 新潟古河バッテリー(株)
国内生産拠点	
当社	今市事業所 (栃木県日光市) いわき事業所 (福島県いわき市) 富山工場 (富山県富山市)
海外拠点	
SIAM FURUKAWA CO.,LTD. (タイ) SIAM FURUKAWA TRADING CO.,LTD. (タイ) PT.FURUKAWA INDOMOBIL BATTERY MANUFACTURING (インドネシア) PT.FURUKAWA INDOMOBIL BATTERY SALES (インドネシア)	
その他	
エフビーファイナンス(株) (神奈川県横浜市) エフビーパッケージ(株) (福島県いわき市) 第一技研工業(株) (栃木県宇都宮市) HDホールディングス(株) (東京都品川区)	



富山工場



PT. FURUKAWA INDOMOBIL BATTERY MANUFACTURING